

調査結果情報

NOSAIひょうご豊岡事務所

◆ 概況

気象庁の発表によると、今年の近畿地方の梅雨入りは5月29日ごろで平年より8日ほど早く、梅雨明けは7月20日ごろと、平年より1日遅い梅雨明けとなりました。今年の平均気温は、10年間平均気温と比較し、5月上旬から7月にかけて平年並みで推移しました。また、降水量は、特に5月上旬と6月上旬で平年を大きく上回る結果となりました。

7月下旬の時点では害虫の発生は少なく、特にウンカ類は例年よりも少ない傾向があります。一方、斑点米カメムシ類は調査場所によって発生バラツキがあり、遊休農地等の隣接田では注意が必要です。いもち病は、7月上旬と比較すると増加傾向にはありますが、全体的には大きな被害につながる発生ではありません。昨年のように出穂前後に降雨が多いと被害が発生する危険もあるので注意はして下さい。



図1 いもち病の病斑

◆ 調査結果の概要

【7月28日調査】

| 調査地域 | 病気の発生状況（25株調査） | 害虫の発生状況（払い落とし及び見とり調査） |
|-------------------------|-----------------------------------------|-------------------------------------------|
| 豊岡 (下鶴井、木内、大谷、気比) | いもち病は一部、紋枯病はほとんどの圃場で確認されましたが、発生量は少ないです。 | 一部の圃場で、ウンカ類及び斑点米カメムシ類を確認しましたが、発生程度はわずかです。 |
| 城崎 (来日) | いもち病、紋枯病ともに確認されましたが、発生量は少ないです。 | ウンカ類を確認しましたが、発生程度はわずかです。 |
| 竹野 (二連原、三原、竹野) | 調査対象の病気は、発生していません。 | 一部の圃場で、斑点米カメムシ類を確認しましたが、発生程度はわずかです。 |
| 日高 (栗山、栃本、山田、竹貫、府市場) | 調査対象の病気は、発生していません。 | 一部の圃場で、ウンカ類及び斑点米カメムシ類を確認しましたが、発生程度はわずかです。 |
| 出石 (袴狭、三木、榎見) | 一部の圃場で、紋枯れ病が確認されましたが、発生量は少ないです。 | 調査対象の害虫は、確認できませんでした。 |
| 但東 (畑、相田、久畑、三原、坂野) | 一部の圃場で、いもち病が確認されましたが、発生量は少ないです。 | 一部の圃場で、ウンカ類を確認しましたが、発生程度はわずかです。 |

◆ 病虫害発生状況と今後の管理について

☆ いもち病

いもち病は、一部の圃場で確認されました。今後の天候によっては、発生と拡大の可能性もあります。特に常発地では注意してほ場を観察し、穂首いもちに感染しないよう、必要に応じて防除を実施してください。

☆ 紋枯病

紋枯病は、一部の圃場で確認されましたが、発生量は少ないです。しかし、発生田では菌核の形で冬を越し、来年以降の発生源となります。そのため、多発圃場では、収穫直後に耕起して稲わらの早期分解に努めましょう。

☆ ウンカ類

21ヶ所を調査し、9ヶ所でウンカ類を確認しました。すべてのほ場で発生量はわずかでしたが、今後の発生に注意して下さい。

☆ カメムシ類

21ヶ所を調査し、4ヶ所で斑点米カメムシ類を確認しました。カメムシ類はイネ科雑草の種子を餌にして増殖を繰り返すので、イネ科雑草が穂をつける前に除草するよう心がけましょう。

カメムシの農薬による防除適期は、穂揃期～乳熟期です。出穂状況を観察し、出穂後10～15日目頃に防除しましょう。

☆ 農薬を散布する場合、隣接する野菜ほ場などに飛散しないように注意しましょう。

今年の気象情報

